



病理診断部 業務実績報告（2024年1月～12月）

◎組織診

受付件数	15,330件
作製ブロック数	62,669個
HE染色枚数	81,921枚
特殊染色枚数	35,319枚
術中迅速診断件数	847件
術中迅速診断ブロック作製個数	1,640個
センチネルリンパ節診断件数	115件
センチネルリンパ節診断ブロック作製個数	409個
未染スライド薄切枚数 （免疫染色用・外注用）	26,766枚

◎免疫組織化学（IHC）

IHC件数	3,591件
IHC染色枚数	16,622枚
ER・PR*件数	489件
Her2*件数	509件
FISH*件数	124件
EBER1*件数	167件

*ER・PR、Her2：酵素抗体法

*FISH：蛍光 in situ ハイブリダイゼーション

*EBER1：EBウイルス関連リンパ腫、
胃がん等の確定診断のための検査

◎蛍光抗体法

件数	520件
染色枚数	2,958枚

◎電子顕微鏡検査

件数	383件
----	------

◎細胞診

受付件数	14,286件
迅速件数	305件
総染色枚数	29,414枚

◎剖検（病理解剖）

件数	13件
うち院外剖検	4件

■組織診：

前年に比べ、受付件数は横ばい（生検・内視鏡件数は減少、手術件数は増加）。ブロック数や染色枚数、未染枚数は減少しました。特に未染枚数については外注依頼項目の変化に伴い依頼数は増えているものの薄切枚数に減少がみられました。術中迅速診断（センチネルリンパ節を含む）は増加傾向、件数及びブロック作製数が増えています。

■免疫：

IHCの件数・枚数共に、2020年をピークに減少しています。検査数の減少がみられる項目については外注検査へ変更されています。CLDN18検査が新たに始まり7～8件/月で行われています。

■細胞診：

細胞診の件数は若干減少しましたが、迅速診とセルブロックは増加しました。自動染色装置・自動ガラス封入装置の導入、細胞検査士1名合格

■電顕：

2024年の検体数は前年に比べ増加しています。腎臓外科の件数は依然として多く、全体の半数以上を占めています。心筋生検に加え培養細胞など、その他件数が増加しました。

■剖検：

病理解剖の件数は引き続き減少し、2024年は過去最低を更新しました。全13件のうち本院外（提携病院）からの解剖依頼が4件ありました。剖検数は減少していますが、CPCの開催を通じて、診断・死因の確定や治療効果など症例の医学的な再検討に貢献しています。